

形状記憶の硬質塩化ビニール管で管内部を密着

共用横主管の更生に新技術

積水化学工業と共同開発



10月22日に行われたデモ施工

いずみテクノス



地下埋設の排水横主管の更生に画期的な施工法が開発され話題を集めている。

住宅設備機器総合商社小泉のグループ企業であるいずみテクノス(本社東京、中間太麓社長)が積水化学工業と共同開発した「リノベライナー工法」だ。共用横主管に、だ円

状に折り畳んだ形状記憶を持つ硬質塩化ビニール管を挿入し、蒸気加熱して挿入。蒸気がなく、また円形に復元、管内に密着させ応(硬化反応)も必要なく臭気も一切発生しない安全な高い工法が実現した。

10月22日には横浜市緑区にある同社の技術開発センターで、マンホール管理事務所同様に新しく塩ビ管を通す同工法は短工期、コスト削減、そして強度、耐久性に優れた技術として、今後の主流工法への発展に期待が高まる。

マンションの地下埋設の横主管を想定した「口径100A、90度曲がり2カ所、45度曲がり4カ所、長さ10m」のモデル配管に、形状記憶の塩ビ管が挿入され、管内密着に見事に成功した。90度の曲がり部でもしわが発生せずに更生ができた。

配管途中に穴開き箇所も設けていたが、管内に新たな硬質塩化ビ管が密着したことで、穴開き箇所があっても更生可能なことを実証した。

共用横主管はマンションの排水管の中でも排水が集中する、最もストレスがかかる部位だ。

地面を掘り返す開削工事が不要で横主管内部に新しく塩ビ管を通す同工法は短工期、コスト削減、そして強度、耐久性に優れた技術として、今後の主流工法への発展に期待が高まる。